



注目ポイント

- ✓先週は円安・金利上昇・株安が同時進行し、いわゆる「トリプル安」的な様相となった。FRBの追加利下げ観測が後退し、高市政権の財政拡張懸念も重なり、ドル円は一時157円台後半まで円安が進行し、国内金利は10年国債利回りが17年半ばりの高水準に達する場面も。また、日経平均は米利下げ観測後退やビットコイン急落等が重なり大幅調整。
- ✓今週の市場は全体的に慎重な動きとなりそうだ。ドル円は米国が感謝祭休暇(27日)で材料が乏しいなか、介入警戒感から円安基調の一服が予想される。また国内金利は日銀の利上げ観測や財政懸念で上昇圧力が続くものの、先週の上昇で上昇余地は限定的と推測。日経平均は半導体・AI株にピーク感が出たとの見方もあり上値が重くなることが予想されるなか、内需株への循環物色も期待されるが、神経質な相場展開となろう。(門倉英司)

2025年11月17日 ~ 2025年11月24日

市場・指標			11月17日 ~ 11月24日		11月24日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均(円)	50,575	48,235	48,626	-1,751	-3.5%	
	米国	NYダウ(ドル)	47,203	45,729	46,448	-699	-1.5%	
	ドイツ	DAX(ポイント)	23,928	22,943	23,239	-637	-2.7%	

市場・指標			11月17日 ~ 11月24日		11月24日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利(国債)	日本	10年(%)	1.835	1.715	1.775	+0.070	
	米国	10年(%)	4.16	4.03	4.03	-0.12	
	ドイツ	10年(%)	2.74	2.67	2.69	-0.03	

市場・指標			11月17日 ~ 11月24日		11月24日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	米ドル(円)		157.89	154.42	156.86	+2.31	
	ユーロ(円)		182.01	179.26	180.73	+1.12	
	豪ドル(円)		102.49	100.15	101.43	+0.41	

市場・指標			11月17日 ~ 11月24日		11月24日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リト(ポイント)	2,021	1,980	2,011	-1	-0.0%	
	米国	NY原油(ドル)	60.93	57.38	58.96	-1.1	-1.9%	
		NY金(ドル)	4,170	4,033	4,167	+38	+0.9%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年11月25日 ~ 2025年11月28日



株式

上値の重い展開か

日経平均
 【予想レンジ】 47,000 円 ~ 49,800 円

- 先週の日経平均は、大幅下落。日中関係悪化懸念や米利下げ観測後退、ビットコイン急落などが重なり、週央まで続落した日経平均は19日には約1か月ぶり安値を付けた。20日は米エヌビディアの好決算を受け、AI関連株が急伸し5万円台を一時回復したが、週末は米ハイテク株安を引き継ぎ、再度大幅に反落して取引終了。
- 今週の日経平均は、上値の重い展開か。米エヌビディア株価が好決算にもかかわらず、利益確定売りに押されその後調整気味となったことで、これまで相場を牽引してきた半導体・AI関連株への物色はピークを迎えたとの見方も。一方で、内需関連株等へのシフトによる相場の下支えは期待できるものの、神経質な相場展開となろう。



金利 (国債)

もみ合いか

10年国債利回り
 【予想レンジ】 1.740 % ~ 1.820 %

- 先週の国内金利は大幅上昇。財政拡張懸念を背景に週前半から上昇基調が鮮明となり、20日に10年債利回りは一時1.835%(17年半ぶり)まで上昇する場面も。週末には米雇用統計を受けた米金利低下や株安によるリスク回避から、債券買い戻しの動きとなり、利回りは反落して取引終了。
- 今週の国内金利は、もみ合いか。日銀の利上げ観測や財政拡張懸念が、引き続き国内金利の押し上げ圧力になろう。もっとも、先週10年債利回りが17年半ぶりの水準まで上昇したことや、超長期債利回りの上昇も一服しており、一段の上昇余地は限定的か。新発国債入札(26日:40年、28日:2年)にて、投資家の需要を確認したい。



為替 (米ドル)

円安基調が一服か

米ドル/円
 【予想レンジ】 154.70 円 ~ 157.50 円

- 先週のドル円は、円安ドル高が進展。FRBの追加利下げ観測が後退していたことや、また高市政権の拡張的財政政策への警戒等がドル買い円売り材料となり、20日には一時1ドル=157円台後半と約10か月ぶりの円安水準を付けた。21日には、片山財務大臣の発言(為替介入について「当然考えられる」)が、持ち高調整の円買いドル売りを誘ったが、週を通じて円安基調が鮮明だった。
- 今週のドル円は、円安基調が一服か。米国が感謝祭休暇(27日)入りで、「利下げ見送り」の決定的な材料を得る機会は乏しい。また、日本政府による円買いドル売り介入のリスクも警戒される。円安ドル高に多少の過熱感もあり、市場はリスク回避(円買いドル売り)色を強める展開になろう。

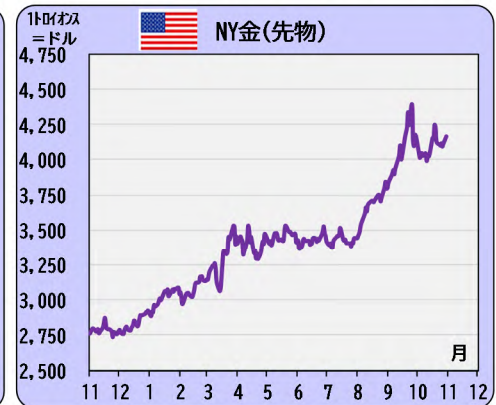
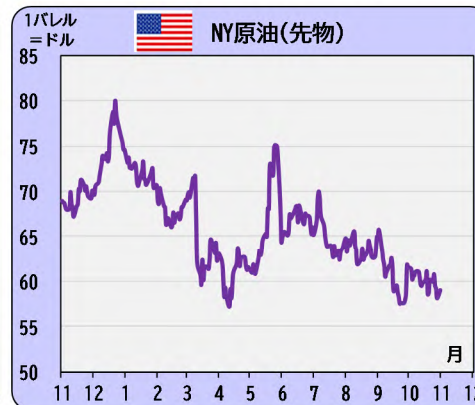
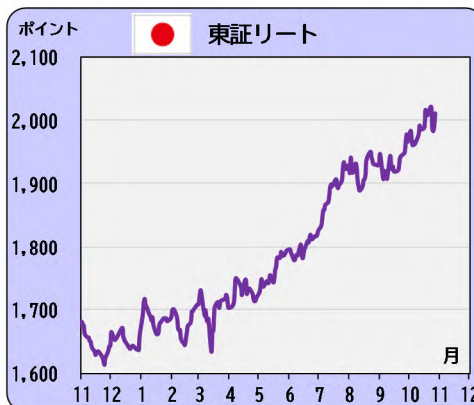
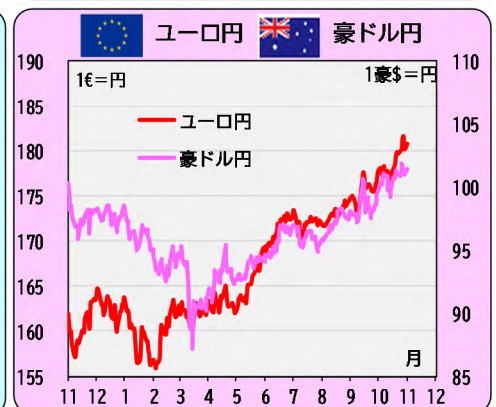
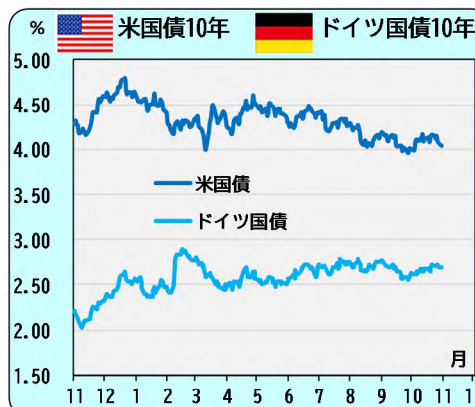
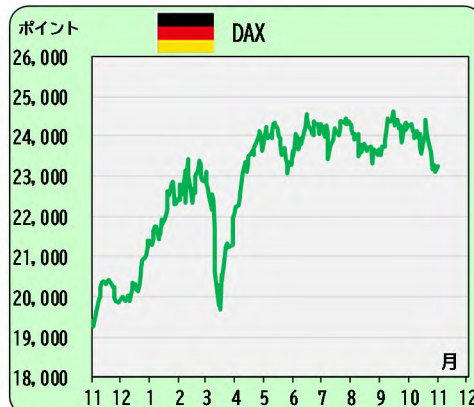
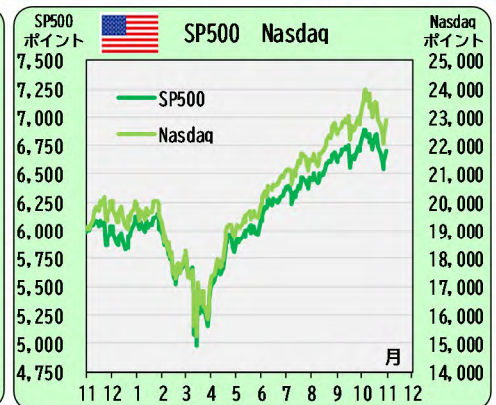
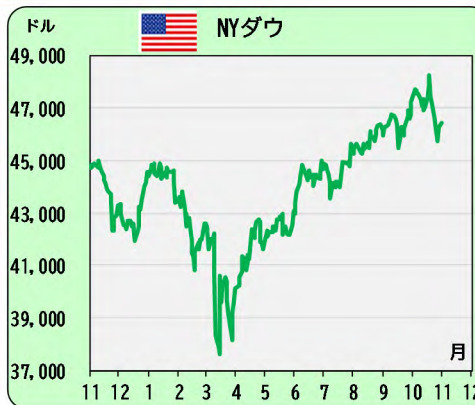


○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
11/24(月)	祝日(振替休日)	米国: 国債入札(2年)
11/25(火)		米国: S&Pケースシラー住宅価格指数(9月) 米国: コンファレンスボード消費者信頼感指数(11月)
11/26(水)	国債入札(40年)	米国: GDP(7~9月)改定値 米国: 個人所得個人消費支出(10月) 米国: 耐久財受注(10月) 米国: 新築住宅販売件数(10月)
11/27(木)		米国: 祝日(感謝祭)
11/28(金)	国債入札(2年) 住宅着工統計(10月) CPI(東京都都区部11月) 完全失業率(10月)	

③その他チャート集

直近1年間



※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
ADP	米国の給与計算代行大手会社	FOMC	米公開市場委員会	PBR	株価純資産倍率
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PCE	個人消費支出
CTA	商品投資顧問	FTA	自由貿易協定	PER	株価収益率
CTFC	米商品先物取引委員会	GDP	国内総生産	PMI	購買担当者景気指数
CPI	消費者物価指数	IMF	国際通貨基金	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
ECB	欧州中央銀行	IEA	国際エネルギー機関	SQ	特別清算指数
ETF	上場投資信託	ISM	米供給管理協会	TPP	環太平洋経済連携協定
EU	欧州連合	OECD	経済協力開発機構	WSTS	世界半導体市場統計
FDI	海外直接投資	OPEC	石油輸出国機構	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)
FF	フェデラルファンド	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み		

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。